
祈るように君の涙を拭う、それはただの我が儘

桜星 雨夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

祈るように君の涙を拭う、それはただの我が儘

【Nコード】

N2493B

【作者名】

桜星 雨夜

【あらすじ】

泣かせてしまったんだ、彼女を。

ひっく、ひっく

喉から漏れる嗚咽の呼吸は、病魔のように全身を巢食う。
とてつもない罪悪感を煽るような、音。

泣かせて、しまった。

ひっく、ひっく

座りこんで、俯いて。

彼女は決して声を上げはしない。

ただただ、嗚咽の呼吸音だけが其処に在る。

泣くつもりなんて、彼女にはなかったのだろう。

驚いたのだ。

だから涙腺が決壊して、涙が溢れてしまった。

どうしようもない呼吸が、内側から込み上げてきてしまった。

「…泣くな、よ」

月並みだけれど。

そんな言葉しか、声にはならない。

ふるふると、彼女は首を振る。

上げられた顔に、不謹慎ながら胸が高鳴った。

濡れた睫。

今にも滴り落ちそうな雫が、彼女の目尻に浮かんでいる。
今にも零れて消えてしまいそうなその雫に、彼は指を伸ばした。
触れると、ぼとり、彼の指の上に落ちる。
透明で、美しい色。

「…悪かったよ」

「なん、で、あやまる、の」

「…怒鳴ったりして、悪かったと思ってる」

再び、彼女は首を振る。

その動きに合わせて、また、雫が落ちる。

「わたし、が、わるいの」

「お前は悪くない。俺が一方的にカッとなっただけだから、マジで
気にすんなって」

「あなたを、おこらせた、のは、わたしだもの」

少し、落ち着いたのだろうか。

嗚咽の呼吸が、彼女から消え失せる。

よかった、と内心安心しながら、今度は彼が首を振った。

けれど。

分かっているのだ。

何回違うと言っても、彼女が自分を責める事くらいは。

彼女はそういう人間だ。

一旦自分が悪いのだと思い込んでしまえば、その意識が彼女から消える事はない。

——厄介なことをしてしまった。

彼はぼんやりとそう思いながら、彼女の頭を撫でた。

今時珍しい綺麗な黒髪。

髪が綺麗だと褒めた時、彼女は驚くほどに美しい笑顔を見せてくれた。

それなのに。

泣かせてしまった。

悪いのは、彼だ。

苛々していて、やつあたりのように彼女に当たってしまった。全くと言っていいほど彼女に非はないのに。

もう、何を言っても無駄だろう。

彼女が落ち着くまで待つしかない。

「…ごめんなさい、わたしの、せい、で」

「…違うよ」

「ごめんなさ、ごめん、な、さい」

「もう、いいから」

「ごめんなさいっ…」

溢れる雫。

胸が痛む。

彼女の泣いている顔なんて——見たく、ない。

次々と溢れるその雫を掬いながら。

彼は、彼女が笑ってくれることを祈る事しか出来なかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2493b/>

祈るように君の涙を拭う、それはただの我が儘

2010年10月11日04時59分発行